

四の宮ゆいま

平成二十年七月十二日

(編集・発行)

赤田神社社務所

九二二・七五八二

甦った 赤田神社

奉賛事業無事終了



赤田神社遷座千二百九十年記念事業奉賛会(会長秋本邦彦氏)では、一昨年八月から事業計画や寄附活動をはじめ、昨春秋には赤田神社の工事が、年末には恵比須神社の工事が竣工しました。また、その他工事が、去る四月中旬までに完了し、全ての事業が終了しました。

地区総代さんや地域の方々のご協力により、事業の計画や財源の確保に努めてきました。

今回、赤田神社の拝殿及び恵比須神社全般の屋根の葺き替えを中心に行い、屋根は、耐腐食性に優れた銅板を使用しました。これにより、うまくすれば向う百年は大丈夫とのことです。

恵比須神社においては、屋根の他、縁板、壁板、戸の補修をし、見違えるほどになりました。

また、常夜灯の設置や、境内の案内板を設置することができました。

地域の皆様には、多くの負担をお掛けしましたが、無事修復工事を終えることができました。ありがとうございました。



お礼のごあいさつ

奉賛会長 秋本邦彦

人は自然の中に神々しさを感じ、自然を崇拜し、畏れ、感謝の念をあらわす術として、先人達は、長い間神を祀り、祈りを捧げてまいりました。

その連綿とした営みから、当社は鎮座から千八百六十余年、現在の地に遷って千二百九十年を迎えるに至りました。

三年前に奉賛会を立ち上げましたときには、事業完遂を誓いつつも、老朽化の甚だしい社殿の様子を目の当たりにし、責務の重さをひしひしと感じたことを、昨日のように思い出しております。

その後、氏子総代、地区有志の皆様の日夜を分かたないご尽力により、たくさんの浄財を集めることができない、この度、全ての事業が無事終えることができました。

これも偏に、出費多大な折にも関わらず奉賛の趣旨にご賛同いただき、ご寄進くださいました皆様方のご理解とご協力の賜と感謝の念で一杯でございます。

この上は、甦った神社を中心に、吉敷地区がますます平安で心やすまるふるさととして、また、赤田神社が吉敷の人々の共通の財産として末永く敬い愛されながら後世に受継ぎのこされていくことを、ただひたすら祈るばかりでございます。

皆様のご懇情に、あらためて衷心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。最後に西行法師の一首を引用させていただきます。

なにごとのおはしますかは知らねども

かたじけなさに涙こぼるる